



7月30日(火)、埼玉県の新座市的美鈴幼稚園の教職員が、矢作海岸で、磯観察を体験しました。

最初に、講師の山田和彦さんと山田博和さん(ともに、観音崎自然博物館の職員)から、磯観察で気を付けることや、生物の多い場所(石の裏や岩のすき間など)について説明がありました。

その後、磯観察が始まりました。海のない埼玉県の方なので、始めは、どうしていいかわからなかったようですが、段々慣れてきて、個人に手渡した網(岬陽小学校からお借りしました)を使って、アゴハゼやイソスジエビなどを捕まえていくようになりました。複数の人数で協力して、アゴハゼをゲットして歓声上がることもありました。

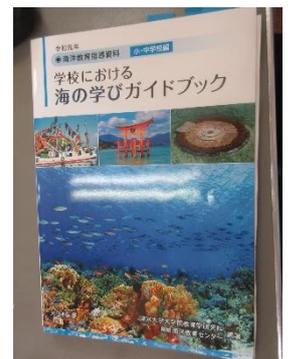


捕った生き物は、初声小からお借りした簡易バケツや表裏観察槽に入れていきます。中には、オヤビッチャやハオコゼを捕まえた人もいました。左の写真は、タツナミガイ(ウミウシの一種)です。

時間を忘れて、生き物を追いかける先生も多く、海の素晴らしさを実感して、十分楽しんでいました。今後、子どもたちを連れて、三浦の海に遊びに来ていただければ、と思いました。

東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター編著の「海洋教育指導資料 小中学校編 学校における海の学びガイドブック」に、三浦市の二人の先生の実践が掲載されています。

小学校では、南下浦小学校の藤田健太郎先生の「三浦の海藻について知ろう」。昨年1年間の実践です。中学校では、初声中学校の藪崎先生の「生物の体のつくりと働き」(煮干しの解剖) 中学2年生の実践です。



ご覧になりたい方は、本研究所までご連絡ください。



6月20日(火)に、南下浦小学校で行われた海藻おしぼ教室の実施報告書が届きました。海藻おしぼ協会の皆さん、ありがとうございました。教室の様子、子どもたちの表情、出来上がった作品などがまとめられています。アンケートは、本研究所がまとめたものです。子どもたちが、大変満足した様子がうかがわれます。



(文責 事務局長 渋谷)

海洋教育に関するお問い合わせは、みうら学・海洋教育研究所854-9443まで